

# ぱーとなー

2008年12月  
第84号

## 耳原総合病院の理念

- 安全・安心・信頼の医療  
私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます
- 無差別平等の医療  
私たちは人権を尊重した医療をすすめます
- 患者負担の少ない医療  
私たちは室料差額はいただきません
- 地域とともに歩む専門職の育成  
人権感覚をもつ専門職を養成します

◎ 耳原総合病院の基本方針は「すべての方に24時間365日、質の高い医療を、地域と共に提供し続ける」ことです

11月22日(土)リーガロイヤルホテル堺にて『地域連携を勧める会』を開催。50院所65名の開業医様はじめ、日ごろより地域医療に貢献されておられるみなさまに御参加いただきました。

## 内科・小児科ERへの期待実感!

## 地域連携を勧める会開催



『勧める会』を開催するまえに、地域医療室課長戸田豊より、9月に約750院所・施設のご協力を得ました「地域医療連携アンケート」の報告を行ないました。アンケートでお寄せいただきましたご意見は、今後の地域医療連携に役立てていきたい

と思います。

当院院長松本久医師のあいさつにより開会。「この会を通じて、今後も、より地域医療連携をすすめていきたい」と強く訴えました。また、日本の医師数を増やす全国的なとり組み『ドクターウェーブ』の署名の協力もよびかけ、多数ご賛同いただきました。

講演会では、ER責任者田端志郎医師より、「救急診療のピットフォール」と題して、堺市の救急医療の現状や、

そのなかでの当院ERの受け入れ状況やピットフォールの症例など報告がされました。

次に、小児科部長田中充医師より「小児救急と細菌性髄膜炎～髄膜炎の早期発見は難しい～ワクチンを全ての子供に」と題して、当院における小児救急の現状、発熱児を評価する際の問題点、髄膜炎の実際、ヒブワクチンの効果など報告されました。

講演会後の懇親会にも沢山の皆様にご参加いただきました。日ごろは、ゆっくりお話ができないので、この場を利用して、直接お話をおうかがいすることができました。そのなかで、当院の内科ERや小児ERへの期待の大きさを改めて実感しました。この期待を裏切ることなく、スタッフ一同、努力してまいります。

発熱の鑑別診断 初期のありふれた症状からイメージできる疾患	
発熱のみ	occult bacteremia、尿路感染症 アデノウイルス感染症、川崎病
発熱+咽頭痛	溶連菌(時に腹痛)・アデノによる扁桃咽頭炎 頻度(溶連菌:アデノ=1:2~3)
発熱+鼻汁+(湿性咳嗽)	RSウイルスなどによる気管支炎
発熱+乾性咳嗽	マイコプラズマなど非定型病原体による 気管支炎および肺炎
発熱+嘔吐	ウイルス性胃腸炎、occult bacteremia 細菌性髄膜炎
発熱+腹痛+下痢(血便) (嘔吐は必ずしも..)	細菌性胃腸炎
発熱+横になって眠れない	細菌性髄膜炎

また、懇親会でおうかがいしましたご意見などは、今後の診療や地域医療連携に、積極的に活かしていきたいと思っております。

医療・介護、ともに、厳しい時代は続きますが、地域の医療・介護に日夜貢献されておられるみなさまと、しっかり手をつないでいくことで、必ずのりこえていける、と実感できる会となりました。

今後とも、よろしくお願い致します。

田中医師のスライドより



### 当日のおもな流れ

- 15:50 地域医療連携アンケート結果報告  
地域医療室 課長 戸田 豊
- 16:03 開会挨拶  
院長 松本 久
- 16:05 講演 救急診療のピットフォール  
副院長 ER責任者 田端 志郎
- 16:50 講演 小児救急と髄膜炎  
小児科部長 田中 充
- 17:35 閉会挨拶  
副院長 三宅 徹也
- 17:35 懇親会  
乾杯挨拶

## 耳原総合病院ERの概要

- 年間救急車搬入数:約4000台(堺地域の約1割)
- 年間ER受診者総数:約1万3千人
- 交通外傷や高エネルギー外傷患者の治療は困難
- 内科救急総合診療を中心としたERとして、幅広い病状に対応できる質の高い救急医療を提供
- 後方病床としてのICUは24時間体制で運営

田端医師のスライドより

耳原総合病院地域医療室  
電話 072-241-0324  
Fax ①072-241-0208  
Fax ②072-241-0670

☆☆☆お電話で患者さまのご都合に合わせて予約いただけます。

折り返しFAXにて予約票をお送りします。☆☆☆  
☆☆☆事前にカルテを準備してお待ちします。

カルテ作成に必要な情報をFAXして下さい。☆☆☆

☆☆☆予約当日、患者さまが受診の際

① 保険証②診療情報提供書③上記予約票をご持参下さい。☆☆☆